



慈光

第98号

平成30年12月



致芳小学校5・6年生の訪問（五十川獅子踊り）

編集・発行

社会福祉法人 長井福祉会

特別養護老人ホーム慈光園
慈光園デイサービスセンター
慈光園中央デイサービスセンター
在宅介護支援センター慈光園
慈光園ホームヘルプステーション
ケアハウス ウェルフェア慈光園

発行責任者 皆川善典

山形県長井市小出3453番地

TEL 0238(88)2711

FAX 0238(88)2712

ホームページアドレス

<http://www2.jan.ne.jp/~jikouen1/>

印刷 (株)サンノー企画印刷



将来の介護を担う者・物

社会福祉法人長井福祉会慈光園

園長 皆川善典

私達には、小さい頃夢中になったテレビアニメや特撮番組のヒーローが今もって心に残っていることと思います。高齢者は、「紙芝居で『黄金バット』を見た。」と耳にしたことがあります。時代を下りメディアがラジオに代わると『月光仮面』、テレビでは『鉄腕アトム』など様々なSFヒーローに心躍った方々が大勢おられます。私の幼少年期にも世界に誇れる沢山のヒーロー作品があり、その中で永井豪作『マシンガンZ』にはそれ相当夢中になりました。自分が主人公のようにパイルダー（ヘリのような飛行体）を操り、ロボットと合体して悪と戦う…そんな空想に浸った記憶があります。

前置きが長くなりましたが、過日、某研修会に参加し、現在のロボット技術の一部を知る機会がありました。そこには、空想の世界でのみ存在し得なかった人型ロボットが、今では人間の運動能力を遥かに凌駕するレベルに達したことを知り衝撃が走る思いをしました。また、AI（人工知能）の進化も目覚ましく、2045年頃には人間の知能を超える見込みと聞きます。こうしたロボットやAI、よく耳にするIct、Iot等の技術は以前から介護業界にも活かされ、各企業での開発商品は日進月歩で性能を高めています。一例に、ベッドやマット上で異常を感知するセンサーが、認知症高齢者等の動きに反応し、介護者の携帯端末へ信号を送り、転倒転落等の危険を未然に知らせるものがあります。そのことにより介護者の見守り回数が減り負担軽減に繋がる訳です。こうした機器の導入は、現在において当施設も含め多くの事業者が導入しており、今後拡大の一途を辿ることは確実だと考えます。

一方、ある施設では「センサーの鳴らない暮らし」という、時代に逆行するテーマの研究発表を拝聴する機会がありました。その施設が、新築移転を機に「センサーマットに頼らないケア」へ方針転換した事例です。いち早くセンサー導入したにも関わらず骨折事故等が徐々に増加したために抜本的見直しを行い、結果、センサーを撤去した3年後には転倒に繋がるヒヤリハット件数が実に48%減少したという内容でした。なぜセンサー機器を導入したことで事故が増加したのか、その分析によると、介護者がセンサーに依存し過ぎたことが最大の要因で、職員間の情報共有が疎かになり、万意思疎通が希薄化したことで介護技術を活かすことができなくなったとのことでした。

私どもは、将来を見据えた先駆的な設備や最新機器の導入こそ、利用者満足と介護人材不足を補填するものであると確信していましたが、この発表を拝聴し、我に返った思いでした。機器への過度な「依存」は一つ間違えれば利用者にシワ寄せがくることの危険性を十分に認識しなければならぬと実感したところです。

近々には間違いなく人工知能や人に代わるロボット、それに連動するシステムが介護現場を席卷し、業務効率化が図られることは必然な帰結です。が、しかし、私たちが忘れてならないことは、それらの機器は、より質の高い介護サービスを提供するための「道具」に過ぎないことをよく理解しなければなりません。介護の仕事は、介護を行う「人」を重んじ、介護知識や技術はもとより人間力を高めることが普遍なものであることを肝に銘じ、職員の養成とともに先進機器等の導入推進を目指さなければならぬと心します。

D-WAT

災害派遣福祉チーム



遠藤 順平

8月6日～10日の5日間、「平成30年7月豪雨」による被害を受けた岡山県高梁市の特別養護老人ホームホタルの里で災害派遣福祉チーム（D-WAT）の一員として活動してきました。長井福祉会でも数年前に浸水被害があったことから「他人事ではないな」と意気込んで行ったのですが、川が氾濫して施設の1階部分が完全に浸水してしまい、未だに給湯器や空調設備が使えず、今後の修復の目処も立っていないという状態に息を飲むほどでした。今回被災地に行き支援をおこなってみて、安心して暮らしていけることのありがたみを再認識することができました。日々の業務でもご利用者がより安心して暮らしていけるよう見つめ直してみたいと思います。



飯澤 亮平

「平成30年北海道胆振東部地震」で被害を受けた北海道勇払郡むかわ町穂別を拠点に、被災地支援として9月12日～16日まで災害派遣福祉チーム（D-WAT）の活動に参加してきました。甚大な被害が出た近隣の施設から13名の高齢者を受け入れました。甚大な被害での介護業務を行ってきました。受け入れ先の施設においても建物被害やライフラインの停止など、地震前の生活とは程遠い環境でしたが入所者の方々は穏やかな時間を過ごしているように感じました。それは、職員自身が被災しているにも関わらず、入所者の「日常」のために必死に働いていたからだと思えます。なかには避難所から通う職員もいて、施設職員としての「責任感」、そして、当施設における「災害対策」を改めて考える機会となりました。



災害訓練

慈光園でも平成25年・26年と続けて豪雨による被害を受けました。火災や豪雨による土砂災害など、あらゆる災害を想定した訓練を年3回実施しております。日頃からの準備をしっかりと行うことで少しでも被害を少なくできればと、本番さながらの雰囲気を取り組んでおります。有事の際に入所者の安全を守るよう今後も訓練を重ねてまいります。







慰霊祭



秋まつり

赤組、黄色組、競いながらもみんな仲よし



文化祭
様々な催しがありました



お楽しみ給食

調理課では入所者に、「いつもと違った雰囲気です。食事を楽しんでいただきたーい」との思いから、『お楽しみ給食』を実施しています。食堂も装飾を施し雰囲気を変え、ゆったりとした昼食時間を設け楽しんでいただいています。鮮魚の解体ショー、流しそうめんなど見た目でも楽しんでいただけていると感じます。出来立てを食べていただくライブキッチンでの寿司や天ぷら、焼肉は人気で、「うまがったあ!!」と、とても素敵な笑顔を見せてくださいます。入所者の皆様に喜んでいただけるよう、楽しく美味しい食事を提供していきたいと思っています。



介護予防教室

11月14日(水) ケアハウスウエルフェア慈光園を会場に慈光園介護予防教室を開催しました。

介護予防教室は長井市からの委託を受け毎年実施している活動で、今年度は福祉レクリエーションワーカー「松木清雄」氏を講師に招き、「音楽に合わせた軽運動」を開催しました。高齢者等が住み慣れた地域で健康でいきいきとした生活が送れるよう支援することを目的としており、今回も60代〜90代までの幅広い年代の方に参加いただきました。

編集後記

今年は、例年になく暑い日が続き、全国的に大雨・台風・地震による災害が多くありました。その中で当地域には大きな被害もなく過ごすことができ、毎年恒例の夏祭りや文化祭等の行事を行うことができました。地域の方々からのご支援、ご協力により活動ができ、入所者の皆様に大変喜んでいただけたことを嬉しく思います。

今回は、数々の行事の中で素敵な笑顔がたくさんありましたのでご紹介させていただきます。

編集委員

- ◎吉野 弘子 田中 俊行
- 飯澤 亮平 遠藤麻希子
- 青木 明子 橋本 恵
- 鈴木 由美 須貝 崇史
- 梅津由香里 井上 琴美